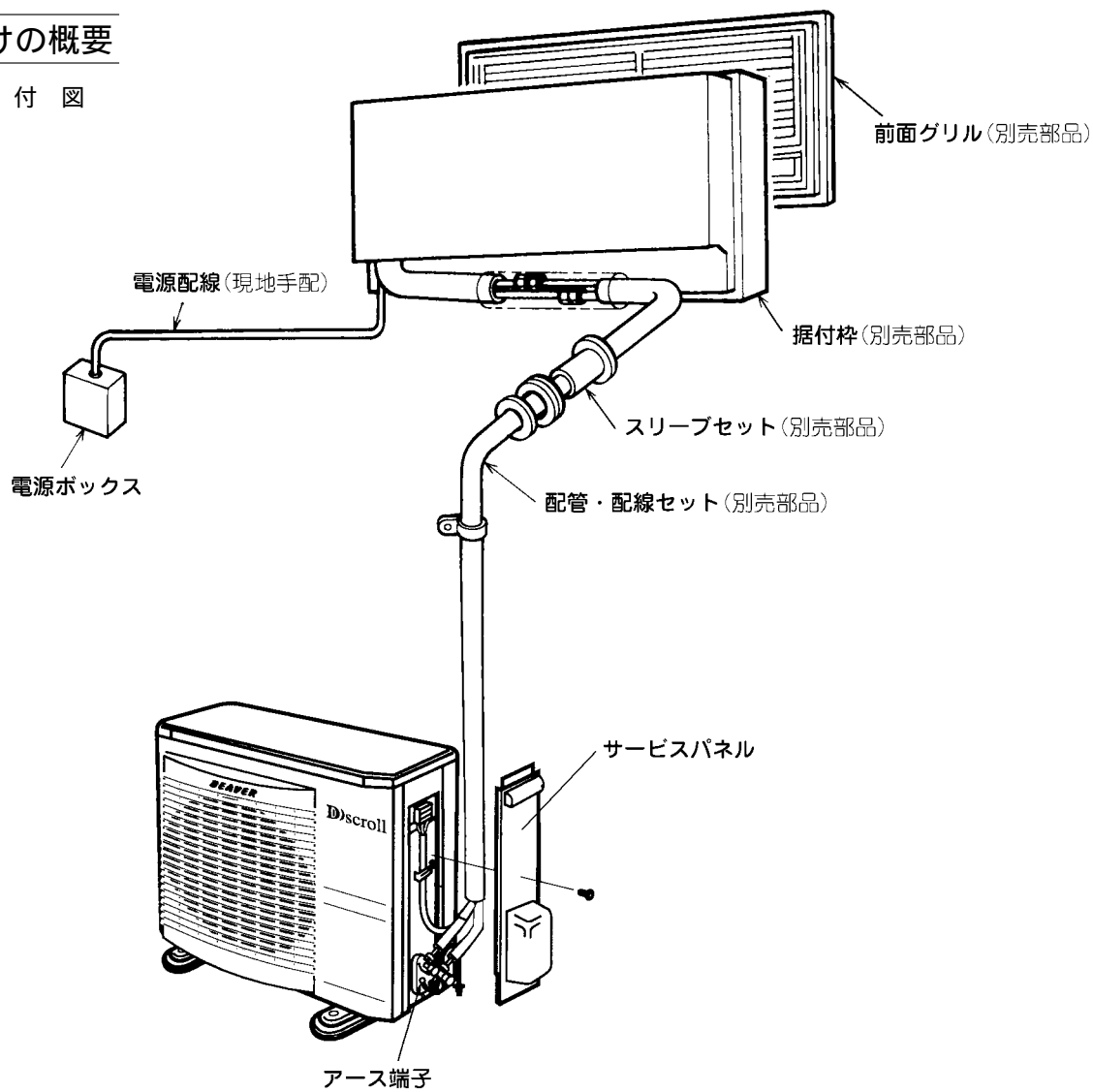


# 5.1.5 壁 埋 形 据付けの概要

(1) 据 付 図

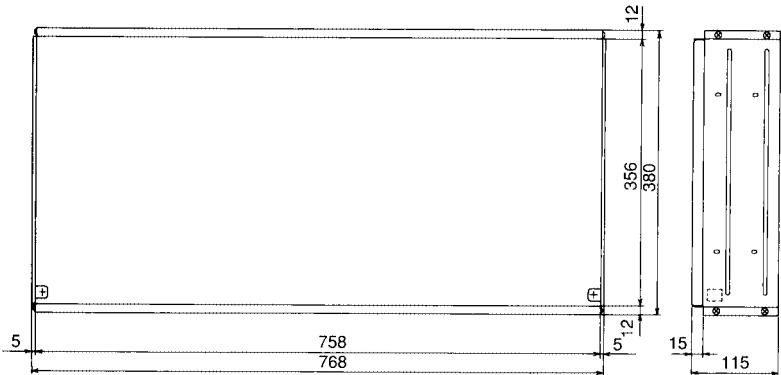


(2) 別売部品一覧

| 機 種 \ 名称<br>形 名 | 前面グリル | 据 付 枠 | スリーブセット | ドレンホース |
|-----------------|-------|-------|---------|--------|
|                 | KUG25 | KUS25 | SS1845A | DH-250 |
| 28 形            |       |       |         |        |
| 32 形            |       |       |         |        |
| 40 形            |       |       |         |        |

(a) 据付枠

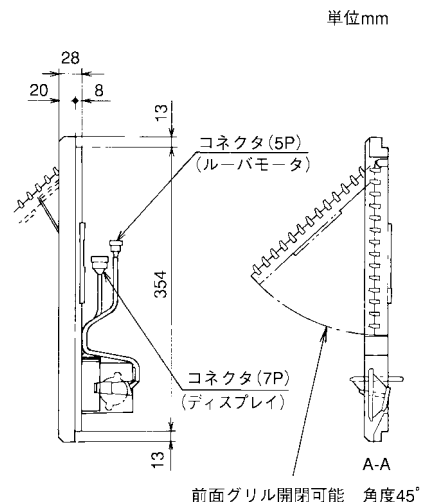
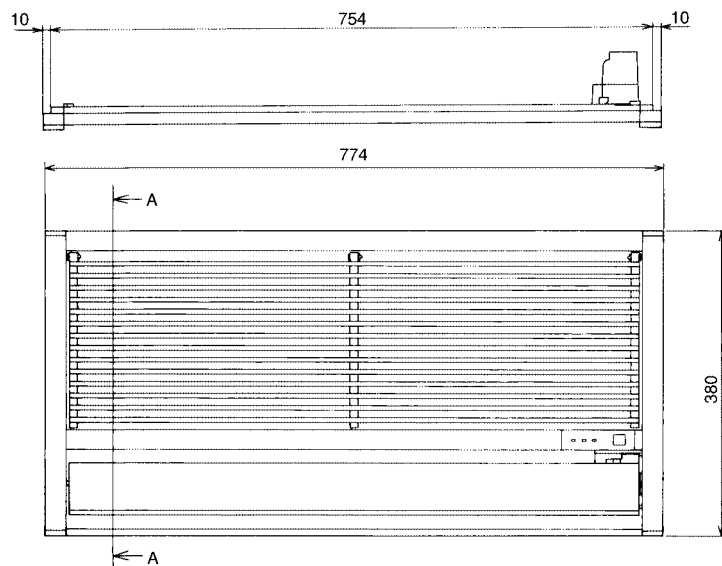
KUS25



単位mm

(b) 前面グリル

KUG25

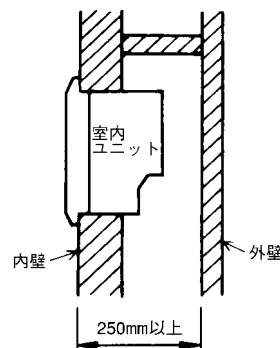


前面グリル開閉可能 角度45°

**据付け場所の選定** (つぎの条件に合う位置に、お客様の承認を得て取付けてください。)

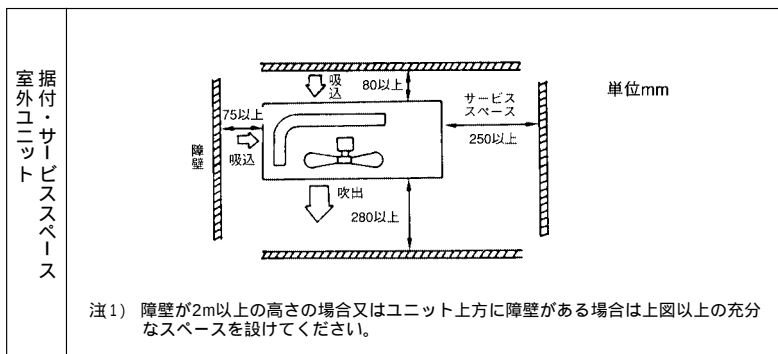
(1) 室内ユニット

- 風の障害がなく、部屋に冷温風が行渡る所。
- ユニットや壁が振動しない丈夫な所。
- 内壁から外壁内側まで250mm以上あるところ。
- ドレン排水が容易にできる所。
- テレビ・ステレオ・ラジオや蛍光灯の影響を受けない所。
- 高周波機器、電線機器の影響を受けない所。
- 油の飛沫の多い所はさけてください。
- 受信部に直接日光や強い照明灯の光が当たらない所。



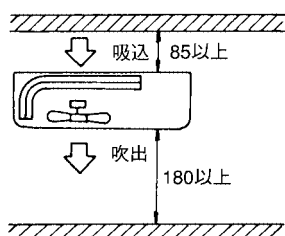
(2) 室外ユニット

- 直射日光のあたりにくい風通しのよい所。
- 吹出空気が再び吸込まれない所。
- 他の熱源から影響を受けない所。
- (複数台設置、近接する熱源)
- 積雪で埋まらない所。
- 雨水及び除霜運転時の溶水の排水はけのよい所。
- 吹出した風や運転音が隣家に迷惑をかけない所。
- 右図スペースのとれる所。
- 振動が増大しない丈夫な所。

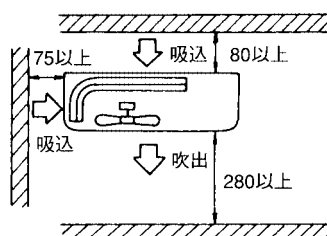


注1) 室外ユニット周囲が開放された据え付け場所が選べず、やむを得ず吸込口及び吹出口に壁などの障害物のある場所に据え付ける場合は、下記に従ってください。但し、その場合には、冷暖房能力及び入力は10%程度悪化する場合があります。

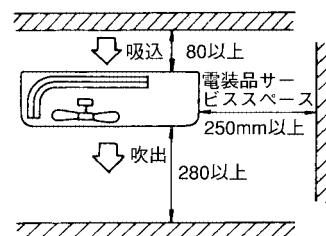
二面障壁の場合



三面障壁の場合 (その1)



三面障壁の場合 (その2)



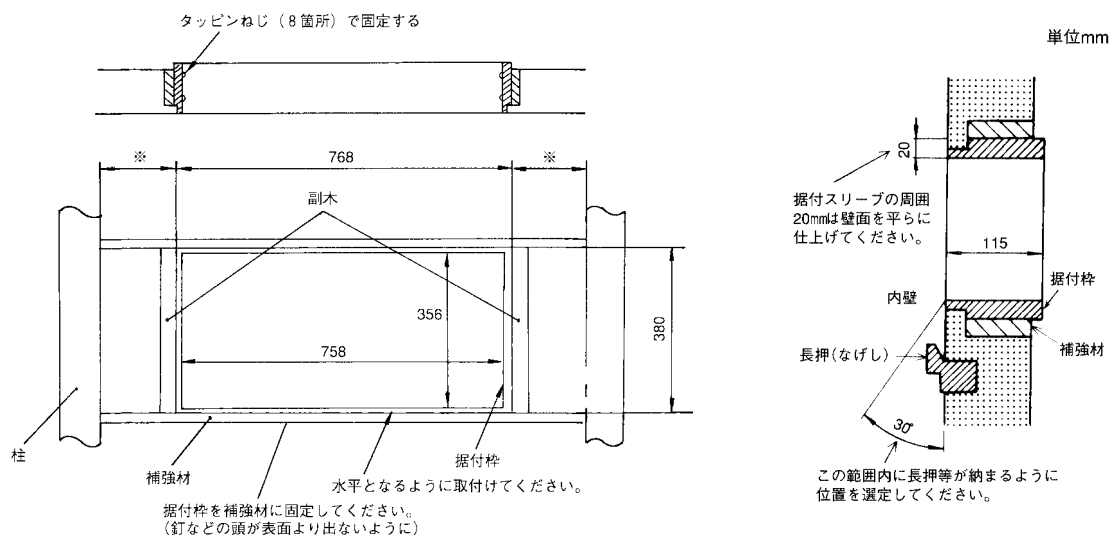
\*能力は低減されます。障壁の高さ寸法は、1200

(3) 冷媒配管距離制限

配管長さ：25m，高低差：15m

## 据付枠の取付け（据付枠は別売部品（KUS25）を使用してください。）

- （１）据付枠は柱等重量を支える部材に補強材を通して固定してください。  
 （強度が不足していますと、落下や騒音・振動の問題が生じることがあります。）  
 印寸法が少なく副木が取付かない場合は柱と据付枠の間に板を入れて柱と共締めしてください。

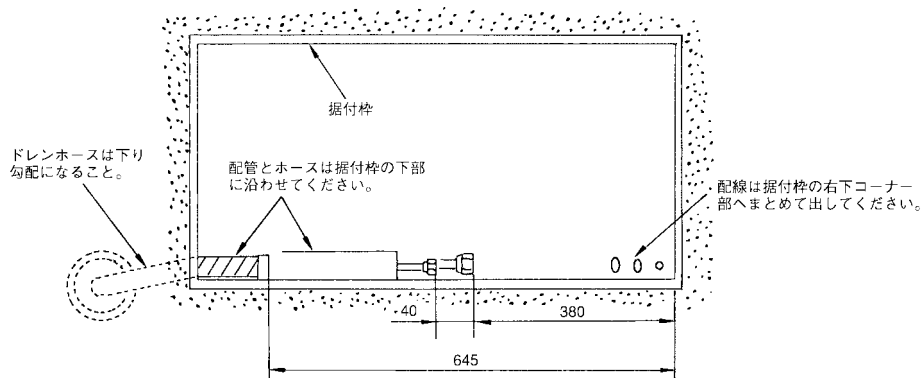
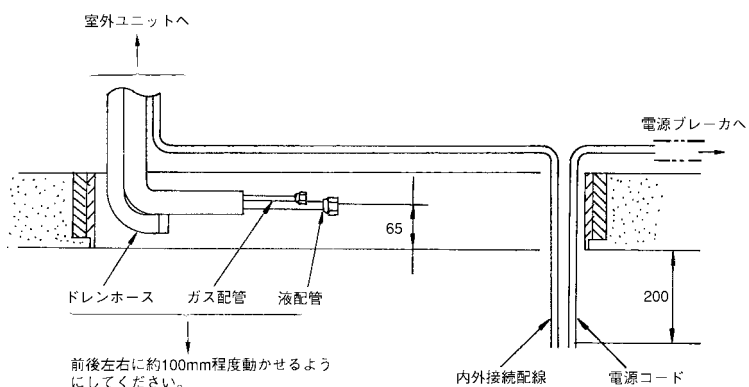


## 壁穴あけ・スリーブのはめ込み

壁掛形と同一です。253ページをご覧ください。

## 配管・配線・ドレンホースの設置

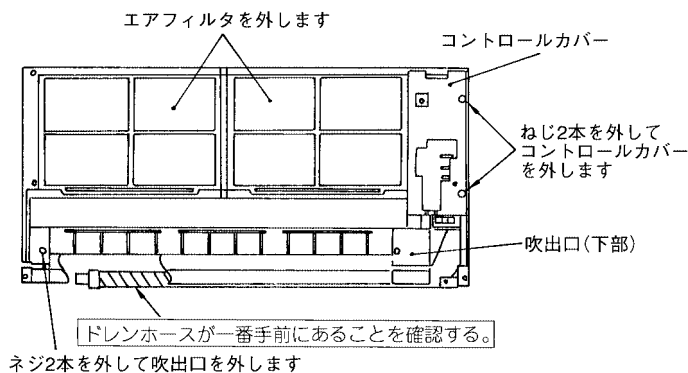
- （１）据付枠を基準にして、下記位置に設置してください。
- （２）設置する前に配管・配線・ホースのサイズ、断熱を確認のうえ工事を行ってください。
- （３）配管とホースは、接続作業をやりやすくするために前後左右に約100mm程度動かせる状態にしてください。
- （４）配管とホースは、ゴミ・砂・水分等の浸入防止のため先端をテープ等で密封してください。



## 室内ユニットの据付け

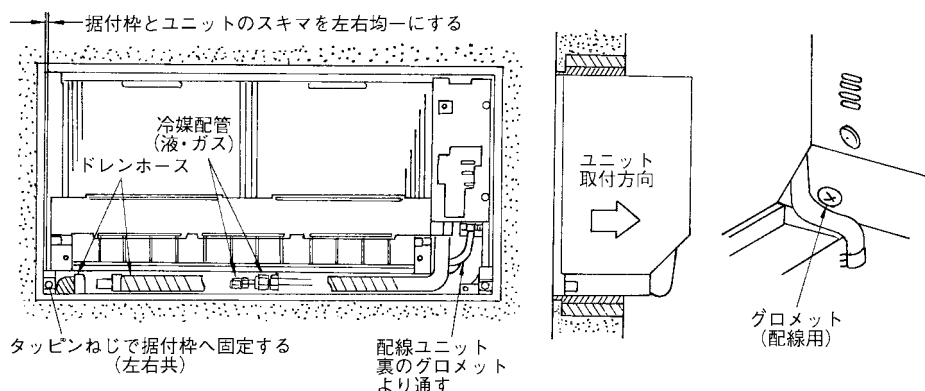
### (1) 室内ユニットの準備

- コントロールカバーと吹出ルーバー、エアフィルタを取外してください。
- 吹出ルーバーを取外したときその奥にドレンホースと接続配管がありますが、ドレンホースが一番手前にあることを確認してください。



### (2) 室内ユニット据付け

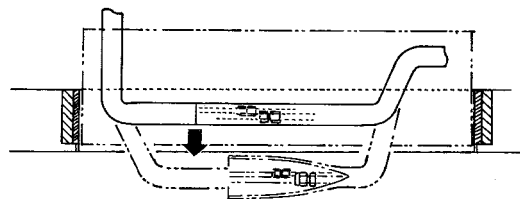
- 室内ユニットを据付枠に挿入してください。(奥まで確実に挿入すること)  
このとき、据付枠内にセットした配線をユニット右下のグロメットよりまとめて通すようにしてください。
- 室内ユニットの左右のスキマが均一になるように調整してください。
- ユニットと据付枠をタッピンねじで固定してください。



## 配管・ドレンホースの接続

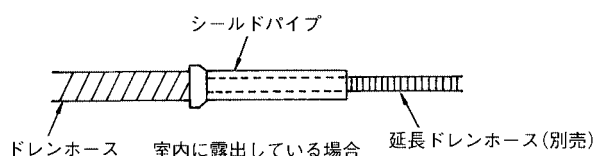
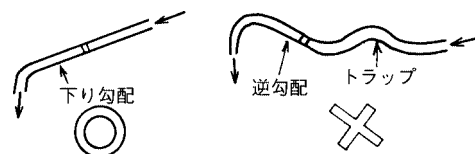
### (1) 配管の接続

- 前面から配管を接続します。
- 接続作業をしやすいするために、スパナが回せる程度迄配管を手前へ引出してください。このとき、配管をつぶしたり、断熱材を破らないよう注意し、配管同志が直線になるようにしてください。又、配管接続後は元の位置へ戻してください。
- 配管接続はスパナとトルクレンチで確実に行ってください。



### (2) ドレンホースの接続

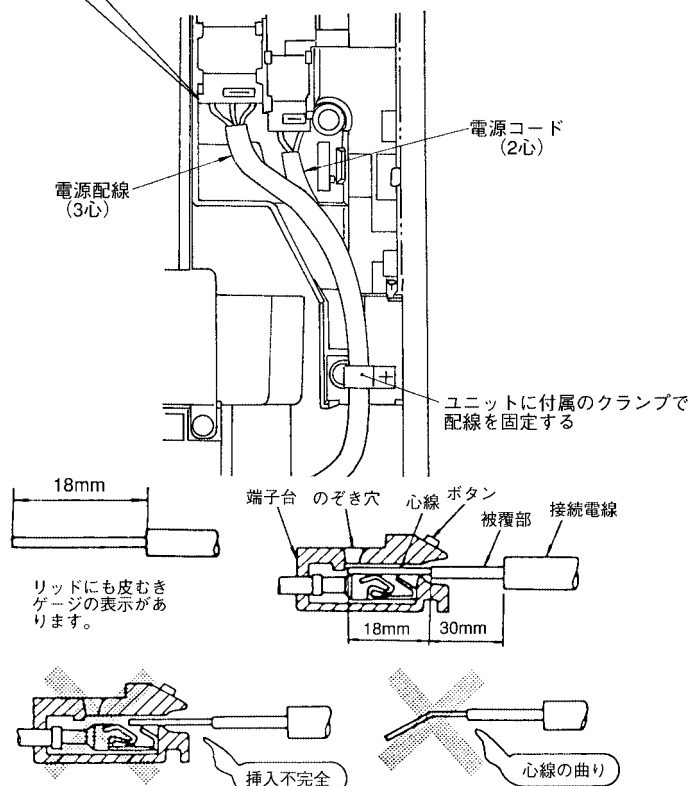
- ドレンホースは必ず下り勾配を付けてください。
- 熱交換器の下のだレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。
- 延長ドレンホースが室内にある場合は必ずシールドパイプ(現地手配)を使用して確実に断熱してください。



## 室内ユニット配線接続

- (1) コントロールカバーを外してください。
- (2) 接続配線及び電源コードを端子台にしっかり接続してください。
  - (a) 接続配線は600Vビニル絶縁シースケーブル（VVF）単線φ2mm×3心を使用してください。
  - (b) 電源コードは600Vビニル絶縁ビニルシースケーブル（VVF）単線φ2mm×2心を使用してください。
  - (c) より線は絶対に使用しないでください。
  - (d) 室内外の接続は端子番号を間違えないように注意してください。
  - (e) 接続配線及び電源コードは下図の如く先端処理し、端子台の奥まで十分に差し込んでください。（端子台ののぞき穴から心線が見えることを確認してください。）  
心線が曲っていたり挿入が不完全な場合、接触不良となり発熱し火災となることがあり危険です。

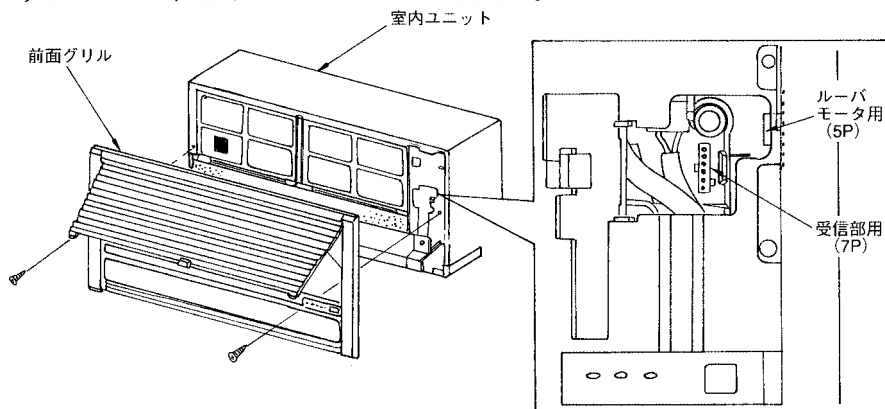
電源を外す場合は○ドライバーでボタンを強く押し、電線を引き抜く



注1) 接続配線長さは26m以内としてください。26m以上になるとユニット間の信号エラーとなりユニットが停止する場合があります。

## 前面グリルの取付け

- (1) 前面グリルは別売品のKUG25を使用してください。
- (2) 前面グリル取付用のねじはユニット本体に取付けてあります。このねじを外して前面グリルを固定してください。（前面グリルの取付けは本体据付後行ってください。）
- (3) 受信部用及びルーバモータ用コネクタをそれぞれ取付けてください。
- (4) 前面グリルを取付けましたら次のことを確認してください。
  - (a) 枠の周囲が壁面とピッタリしているか。
  - (b) 吹出し部周囲が本体のシール材と密着しているか。（スキマがあるとショートサーキットや露付きの原因となります。）
  - (c) 吸込グリル、吹出グリルはスムーズに動くか。



室外ユニットの据付 配線の接続 リモコンの取付 配管接続のしかた

エアページ 冷媒追加チャージ 接続部の断熱 試運転及びチェックポイント

壁掛形と同一です。256～258ページをご覧ください。

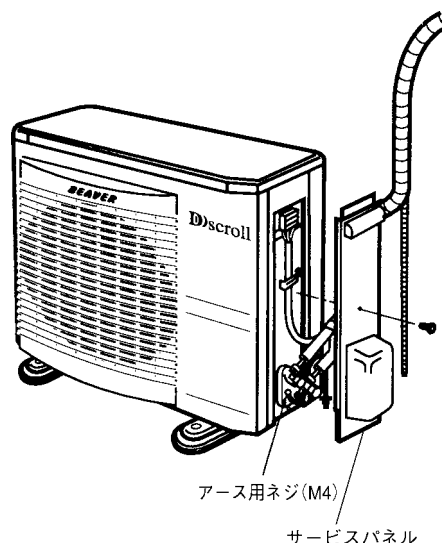
ワイヤレスリモコン操作・取付上の注意

258ページをご覧ください。

## 室外ユニットの据付け（渡り配線接続）

### （１）室外ユニットの設置

- (a) 据付・サービススペースがあることを確認してください。
- (b) ユニット脚部はがたつかないよう頑丈な台などに固定してください。
- また振動が家屋に伝わらないようにユニットと取付金具の間に防振パッド等を介して固定してください。
- (c) 底板のドレン接続口にドレンエルボ等を利用し排水工事をしてください。
- (d) 以下の気温が数日続く様な地域ではドレンエルボは取付けないでください。凍結によりドレン水が排出できなくなる恐れがあります。)
- (e) 高所や強風のあたる所などの転倒や落下の恐れがある場所に設置する場合は基礎ボルトや針金などで室内ユニットを固定してください。



### （２）アース工事

接地の基準 接地の基準はエアコンの電源電圧及び設置場所により異なります。

下表により接地工事を行ってください。

| 電源の条件           | エアコンの種類                      | エアコン設置場所 | 水気のある場所に設置する場合                  | 湿気のある場所に設置する場合    | 乾燥した場所に設置する場合                            |
|-----------------|------------------------------|----------|---------------------------------|-------------------|------------------------------------------|
| 対地電圧が150V以下の場合  | 100Vの機種<br>(含単相3線式200Vの機種)   |          |                                 | D種（第3種）設置工事が必要です。 | D種（第3種）接地工事は法的には除外されますが安全のため接地工事をしてください。 |
| 対地電圧が150Vをこえる場合 | 3相200Vの機種<br>(含単相2線式200Vの機種) |          | 漏電しゃ断器を取り付けさらにD種（第3種）接地工事が必要です。 |                   |                                          |

特にインバータエアコンには、静電気による帯電やノイズを吸収するためにアースが必要です。

注1) 次のようなものにアース線と接続すると、危険ですので絶対に行わないでください。

- ・水道管
- ・ガス管
- ・テレビアンテナ
- ・避雷針や電話のアース線

D種（第3種）接地工事について

- ・接地工事は電気工事士の方が行なってください。
- ・接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。ただし漏電しゃ断器を取付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

乾燥した場所に設置する場合

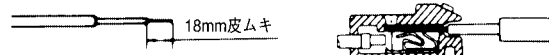
- ・接地抵抗は100Ω以下になるようにしてください。

### （３）渡り配線を接続します。

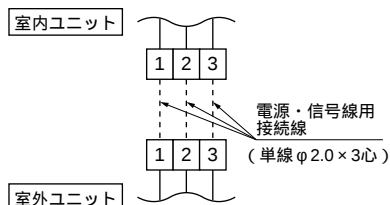
内外接続線（電源・信号線）の先端処理と差し込み。

（クイック差し込み式）

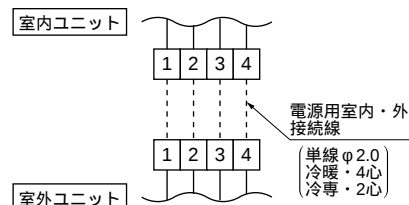
室内の端子台の番号と合わせて接続してください。（誤接続をしますと電装品の故障の原因になりますので正しく接続してください。）



#### ●インバータ機



#### ●標準機



注1) ノイズ等による誤動作防止のため内外接続線が長過ぎる場合は、ユニット内へ収納せず束ねて配管ビニール等で固定してください。

(2) 内線規定に従って電気工事士の方が漏電遮断器が必要かどうか判断してください。

## E

## 配管の接続

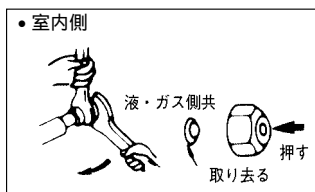
## 配管接続のしかた [本ユニットはフレア接続です]

S, SS, L, T, ZシリーズはR410対応機です。  
必ずR410A用接続配管, フレアナットをご使用ください。

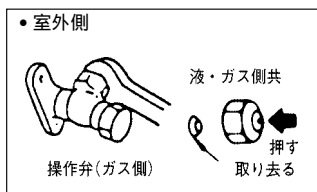
室内ユニットには地球環境保全のため、冷媒は封入せず、窒素ガスを大気圧で封入しています。

(据付時、フレアナットを外した際、“シュッ”というガス音はしません)

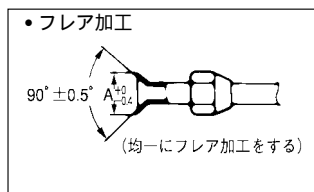
## (1) 準備 (配管は接続するまでゴミ、砂等が入らない様にテープ等でふさいでください)



フレアナットを外してください。



フレアナットを外してください。



外したフレアナットを使いフレア加工してください。

## A寸法

液側 φ6.35)

R410A : 9.1

R22 : 9.0

ガス側 φ9.52)

R410A : 13.2

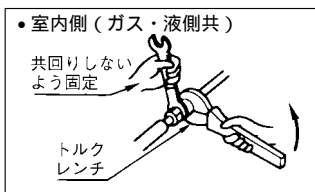
R22 : 13.0

(φ12.7)

R410A : 16.6

R22 : 16.2

## (2) 接続



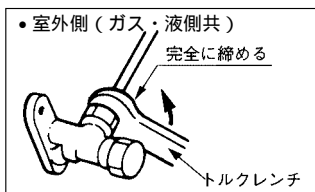
室内側配管を完全に接続します。

注1) 締め付けトルクは次の通りです。

液側 : 17mm・14~18N・m (1.4~1.8kgf・m)

ガス側 : 22mm・33~42N・m (3.3~4.2kgf・m)

: 24mm・50~62N・m (5.0~6.2kgf・m)



液側、ガス側ともに規定のトルクで締め付けてください。

⇒ 真空引きの項に続く

## 真空引き [次の要領で室外ユニット側で真空引きをしてください]

地球環境保護の観点よりフロンガスを大気中に放出しない真空ポンプ式によるエアパージを行なってください。

- 作業前にガス側・液側共、キャップを外してから作業を行ってください。
- 作業終了後は、必ずキャップを締め付けてください。(ガス漏れの恐れがあります。)

配管は室内側・室外側すべてのフレアナットを洩れのないように締め付けてください。

右図のようにチャージホースを操作弁、真空ポンプに接続してください。

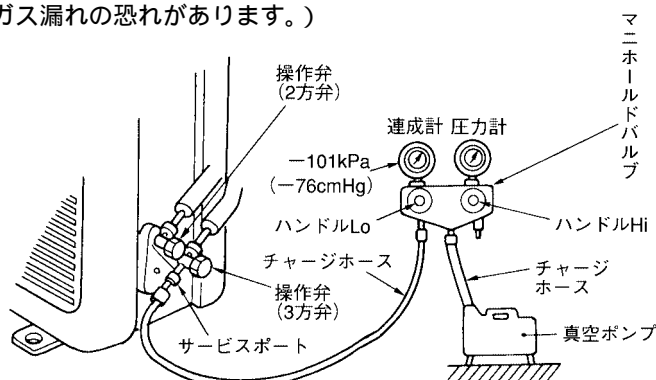
マニホールドバルブのハンドルLoを全開にし、真空引きしてください。真空引きは15分以上行い、連成計が - 101kPa ( - 76cmHg) になっていることを確認してください。

真空引きが完了したら、操作弁 (液側・ガス側共) を六角レンチにて全開してください。

室内・室外の接続部のガス洩れがないことを確認してください。

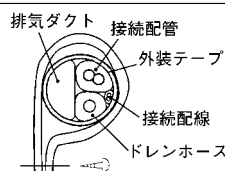
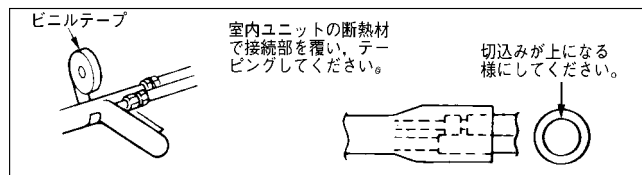
## • 冷媒の追加チャージ

真空ポンプを使用する場合は10mまで追加チャージは不要です。(S, SS, L, T, Zシリーズ: 15m迄, KRLシリーズ: 20m迄不要です。) 制限距離内で配管長が長くなる場合, 20g/m追加チャージしてください。



## 接続部の断熱

- (1) 室内ユニットの断熱材でフレアナット部を覆い、必ず密封してください。(密封しないと水洩れします)
- (2) 仕上げと固定
  - (a) 外装テープをきれいに巻き配管を固定する場所に沿って整形してください。
  - (b) 配管クランプで壁等に固定してください。



## リモコンスイッチの取付け

- (1) リモコンスイッチは付属のリモコンホルダ (ビスで壁・柱等に取り付ける) に取付けてください。

## (真空引き)

## F 仕上げ補修

## 試運転説明及びチェックポイント

ガス洩れ検査をしてから試運転してください。

暖房開始時はホットスタートが動きすぐに送風されない場合があります。

(コントロールの概要の項目をご覧ください。)

ドレン水が正常に流れることを確認してください。(右図)

電圧が低く始動し難い場合は電力会社に電圧を上げてもらってください。

(正常でもブレーカー落ちまたはヒューズ切れとなる)

電源プラグをコンセントに差し込みゆるみがない事を確認してください。

・コンセントが悪く差込みがゆるいと焼損する恐れがありますのでその場合は必ずコンセントを交換してください。

・特に既設のコンセントを使用する場合は注意してください。

3分遅延回路の動作は次の通りです。

・運転を停止した時(リモコンの運転停止スイッチ)

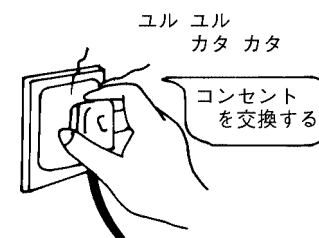
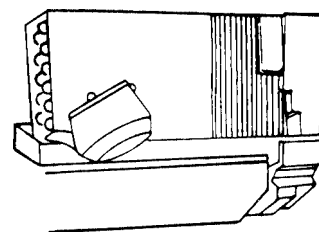
・サーモスタットが働いた時

・運転切換(冷房・暖房)をした時

・異常停止(保護装置作動)した時

取扱説明書により正しく判り易くお客様に説明してください。

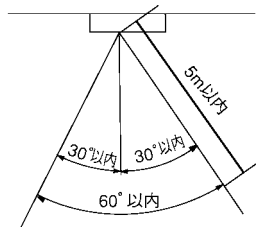
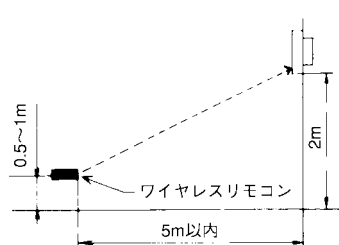
特にワイヤレスリモコンの電池については漏液による故障をさけるため長時間使用しない場合は、電池を外しておくように説明してください。



## ワイヤレスリモコン操作・取付上の注意

### (1) ワイヤレスリモコンの操作距離

#### (a) エアコンの前面から操作する場合



注1) リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。

(2) 操作距離は、左図の通りですが条件により異なり(増減)します。

(3) 受信部に電灯等の強い光が当たっているか又は、ホコリが溜まっている等の場合は、操作距離が、短くなるか又は受信しなくなる場合があります。

#### (b) 壁等に取り付けて操作する場合

壁や柱等リモコンホルダを取り付け使用する場合、角度等によって送信しても本体の受信部に伝わらない場合がありますので、あらかじめエアコン本体が正常に受信すること(受信音「ピーッ」とブザーが鳴る)を確認した上で取り付けてください。

## 移設時または取りはずし時の作業方法

### (1) 地球環境保護の観点から、冷媒の回収(ポンプダウン)を行ってください。

#### (2) ポンプダウン

ポンプダウンとは移設等のためエアコンの配管を外す時室内ユニットにある冷媒を室外ユニットに回収する作業です。この作業は必ず冷房運転で行います。室温が低い場合は、強制冷房運転(下記の または の操作)で行ってください。

#### (強制冷房運転)

リモコンの設定温度を連続にして冷房運転を行います。

電源プラグを一度抜いてしばらくしてから再度コンセントに差し込んで、本体「運転/停止」ボタンを5秒以上押し続けてください。(5秒後に「ピッ」と音がします)

